



市民懇談会では、活発に意見やアイデアを出し合っています



那須塩原駅周辺の課題などを踏まえ、令和3(2021)年3月に策定した「**那須塩原駅周辺まちづくりビジョン**」。「市民と共に作っていく」ことを大切に、さまざまな団体・分野のメンバーで構成する「**那須塩原駅周辺まちづくりビジョン市民懇談会**」を開催し議論を重ねてきました。今回は、市民懇談会を代表して3人に話を聞きました。

那須塩原駅周辺の将来像は？

市民懇談会に参加したきっかけを教えてください

石井 まちの顔にもなる駅周辺について、さまざまなメンバーと話しながら、物事を進めることができるのでは、と期待して参加しました。家族で来た思い出があるまちなので、関わる事ができて嬉しです。

西田 夫の転勤がきっかけで転入し、この地域が好きになりました。子育て世代の人と関わる仕事をしているので、子どもや保護者の意見を懇談会で伝えるなど、メッセージャー役を担いたいと思っています。

濱野 県央、県南に比べ、県北はコミュニティや市民団体などの横のつながりが弱く個人的に感じていました。私自身、若者や高齢者と勉強会などの活動をしていて、外に目を向ける機会を得るために、市民懇談会に参加してみようと思ったんです。



子ども分野で参加
西田 由記子 さん
Nishida Yukiko

市民懇談会に参加して、意識はどう変わりましたか

石井 委員だけでなく、ワークショップで市民の皆さんと問題意識を共有し、それぞれの立場から意見を聞いたのが大きな収穫でしたね。

西田 民間事業者と一緒に地域でやってみたいアイデアがありましたが、これまでは話せる場所がありませんでした。市民懇談会をきっかけに、話せる機会ができたことが面白くて、未来に向けて作り出せる可能性を感じることができました。

濱野 懇談会では積極的に意見を交換することができました。昔からの良いところも大事にしながら、新しくどう変えていけるのか議論を重ねた結果、次にどんな行動をするかを考えるようになりました。



市民懇談会委員長
宇都宮大学地域デザイン科学部
准教授
石井 大一朗 さん *Ishii Daichiro*

現在の駅周辺の印象や足りないものは何ですか

石井 現状のロータリーにあるベンチは、一人では座りにくく感じますし、軽く休憩できる場所が少なく、居心地があまり良くない印象です。テラスとベンチがあつて、常に人がいると座りやすくなるのではないのでしょうか。

西田 駅の待合室は、那須山麓が一望できてすごく景観が良く、とても落ち着ける雰囲気になっていると思います。しかし、「駅周辺を歩きたくなる」ここからどこかに

那須塩原駅周辺のまちづくりにこれから期待すること、やりたいことはありますか

石井 人の新しいつながりが生まれれば、それぞれできることを持ち寄り新しいまちの風景が作られていきます。それをこの目で見てみたいです。

西田 子どもの作品を展示する場所には、保護者も関心を持って来てくれると思うんです。例えば、駅やバスに作品を飾るとか。私も小さなことでも、思いついたらどんなやっていきたいです。

濱野 若者や市民が集まれる場所や複合施設、学生が何かできるような仕組みがあるといいですね。私も「那須塩原市は面白い」と言われるようなイベントをやってみたいです。



青年・若者分野で参加
濱野 将行 さん
Hamano Masayuki



那須塩原駅西口のロータリー

濱野 那須塩原駅は新幹線の基地があるので終電が多いせいか、新幹線で終電近くに帰ってくると、自分と同じようにバスを逃して困っている人たちを見かけます。そうした人向けの、ゲストハウスなどの居場所があると面白いと思います。



区画整理後の状態

現在

白線内の地区で区画整理が行われました

33年前